TRIBUNE SHIKOKU
編集部では、読者の皆さんからの情報提供や投稿を募集しています。また当社HP上にて、NET-NEWS（￥8,400）を設け、最新情報を発信しています。
情報提供や購読希望の方はご連絡ください。
☎ (088)664-5004
FAX(088)664-4809
E-mail-tribune@mail.planning21.ne.jp

トリビューンしこく

《毎月5・15・25日発行》
発行所 ㈱トリビューンしこく
〒770-0874 徳島市南沖洲2丁目4-10
電話(088)664-5219 FAX(088)664-4809
年間購読料 7,500円
阿波銀行県庁支店/口座番号・普通0318279
徳島銀行県庁支店/口座番号・普通5283742
郵便振替口座/01650-6-22468

昭和31年2月27日 第三種郵便物認可 第1623号 令和8年2月25日（水曜日）
【掲載記事、写真等の無断転用を禁止します】

藍住町総合文化ホール
☆阿波藍の里 あいずみ☆
藍住町
〒771-1292 板野郡藍住町奥野字矢上前52-1
TEL(088)637-3111 FAX(088)637-3154
https://www.town.aizumi.lg.jp

三千数百人の町民を疑心暗鬼にさせた闇夜に紛れて潜り込んだ牟岐の鼠小僧！

「約九万円が消えた」

容疑者十数人

役場で公金消失騒動

牟岐町

約九万円が消えた?!。牟岐町役場で現金行方不明騒動だ。鍵がかかったキャビネットに保管していた現金がなくなっていた。現金と鍵の存在を知る十数人の職員は誰も「知りません」。町は牟岐署に被害届を出したが、現金が入っていた封筒には複数職員の指紋がベタベタ。監視カメラもなく、迷宮入りになりそうだ。町は枡富町長らの処分を検討しているが、町民からは「こんな杜撰な役場に税金など払えない」との声が…。

二枚の封筒の中から消えた現金

現金消失が判明したのは昨年十二月一日。職員が気付いた。鍵がかかったキャビネットで保管していた封筒の中から現金が消えていた。キャビネットは役場一階の産業課にあった。

封筒は二つあった。一つには「緑の募金」八万数千円が入っていた。もう一つには「千年サンゴと活きるまちづくり協議会」のサポーター会費一万三千円が入っていた。

現金は町民から預かった金だった。緑の募金は昨年十月～十一月に九町内会から受け取った。サポーター会費は昨年七月～十一月に町民九人から受け取った。

緑の募金は町が徳島県森林づくり推進機構に振り込み、森林整備等に活用される。サポーター会費は県南部総合県民局にある事務局に渡され、サンゴの保全活動等に活用される。

関係職員は全員「知りません」、牟岐署に被害届

約一年前は入札で最低制限価格間違える失態

現金消失に気づいた町は、現金と鍵の存在を知る職員十数人に確認した。結果は誰も「知りません」。万事休した町は牟岐署に被害届を出し、二つの封筒を提出した。

牟岐署は二月十七日、担当者が役場を訪問したが、関係者が多く、監視カメラもないため、捜査は難航しそうだ。迷宮入りの可能性が強い。「約九万円の紛失」で落ち着きそうだ。

窃盗か紛失か、どちらにせよ、約九万円の現金が消えたことは確か。町は三月末をめどに枡富町長ら関係者を処分する方針だ。消えた現金は大森副町長が立て替えている。

鍵の所在を知る職員は十数人、杜撰な公金管理

約九万円が消えた牟岐町役場。公金管理の杜撰な実態が浮かび上がっている。現金を保管していたのは事務室のキャビネット。鍵はかかるが、十数人の職員が鍵の所在を知っていた。

町は「今後は現金を金庫で保管する」と再発防止策を打ち出すが、現金を金庫で保管するのは公金管理の初歩だ。町民から預かった公金の重さに対する認識が甘い。

庁舎内に監視カメラは一台もない。現金の保管場所は二十四時間の監視カメラを設置するのが危機管理や防犯対策の鉄則。監視カメラ設置による抑止機能も働いていなかった。

大森副町長は建設中の新庁舎には「監視カメラを設置する予定だ」とのことだが、老朽化した現庁舎はノーガード状態。いま目の前にある危機に対応できていない。

牟岐町の借金は約三十億円。今年一月の人口は三、二九九人で昨年より一二五人減っている。人口が減る一方で一人ひとりの町民に借金負担が重く圧し掛かっている。

約九万円の行方不明騒動は税金で町財政を支える町民の町政不信を喚起し、「預けた税金はきちんと管理されているのか。税金を払う気がしない」と納税意欲の減退を招いている。

令和五年には工事入札で最低制限価格の設定ミス

「コミック町政」はもうコリゴリ

牟岐町ではここ数年、職員不祥事が相次いでいる。個人情報の入った書類の持ち帰り、交付金返還手続きの怠慢、公共工事入札における最低制限価格設定のミスなどだ。

最低制限価格の設定ミスでは、最低制限価格を低く設定してしまったため、本来落札できなかった企業が落札。落札を取り消し、入札をやり直すなど公共工事で混乱を招いた。

町は枡富町長ら特別職を減給処分にしたが、入札で最低制限価格を間違えるという前代未聞の失態は建設業界内に「公正公平な業者選定が行われているのか」と不信感を拡大させた。

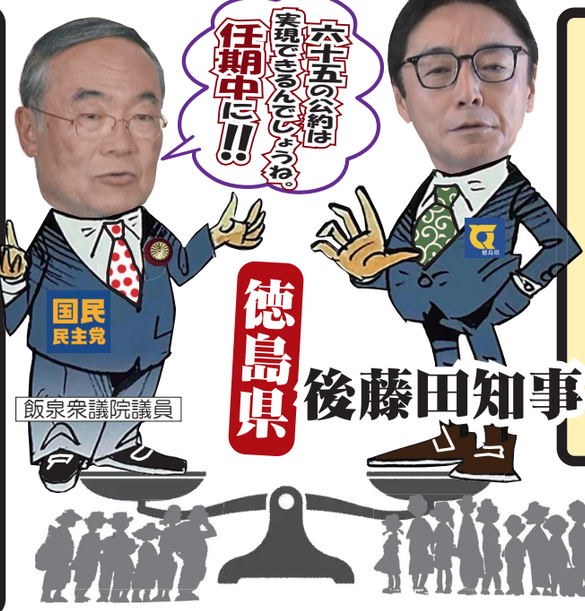
あなたの情報大募集!!
秘密厳守
守秘義務の徹底で情報提供者の方を必ずお守りいたします。

本紙記者が取材し、公益に反する問題点を徹底追及します。情報提供は本紙HPの情報提供フォームの他、メール、FAXでもお受けします。メールの場合は「返信先アドレス」をご記入ください。G-mailでも構いません。
「身元がバレるのでは」と懸念されるかも知れませんが、情報提供者のプライバシーは厳守しますので、ご安心ください。
社会に警鐘を鳴らす内部告発や情報提供をどしどしお寄せください。

〒770-0874
徳島市南沖洲2丁目4-10
㈱トリビューンしこく編集部
FAX：088-664-4809
TEL：088-664-5219
Eメール：tribune@mail.planning21.ne.jp
本紙ホームページ内の［情報提供］からも投稿できます。

どちらに貫目あるか？

過去の実績 現在の実績



元・徳島県知事
元・衆議院議員（8期）
元・内閣府副大臣
現・徳島県知事
第十三代 全国知事会会長
現・国民民主党 衆議院議員

化けの皮剥がれ始めた「大風呂敷公約」

「新宝島大作戦」を打ち出した後藤田知事

知 事就任後一年半を過ぎた令和八年。後藤田知事は新しい県政方針を打ち出した。「新宝島大作戦」。文化や歴史、特産物など「徳島の宝」を国内外に発信する戦略だ。「宝島」というタイトルは飯泉前県政のバクリが指摘されている。飯泉前知事は政治資金パーティで「徳島を宝の島にする」と強調。宝の島・徳島の成長戦略をアピールしていた。新宝島大作戦でイメチェンを図る後藤田知事だが、前途多難だ。知事選で訴えた六十五項目の徳島県生戦略は実現度が低く、「大風呂敷だったのか」と県民に失望感が広がっている。

計画が二転三転、ゼネコンがそっぽ向く新ホール

最 大の大風呂敷が新ホール。知事選で飯泉前知事の一九四億円プランを「半額でできる」とアピールしたが、事業費や業者選定方式が二転三転。今や二百億円に跳ね上がっている。業者選定方式は設計施工一体型から設計を分離したが、県議会からは「二百億円で設計しても建設工事時には物価が高騰、二百億円を超えるのでは」と懸念の声が上がる。過去何度も計画がスタートしては頓挫した県市協調ホール。ゼネコン業界では徳島県や徳島市は「契約してもどうなるかわからない」とブラックリストに入っている。設計業務の分離で事業のスピードアップを目指す新ホールだが、顧客信用度が低い徳島県だけに、二百億円規模の予算で食指を動かすゼネコンが現れる可能性は低い。

チャイナリスクの洗礼受けた喜望定期便

イ ンバウンド対策では、香港定期便を就航させたが、約九カ月で運航ストップ。支援金額を隠す不透明県政の実態を露呈。補助金食い逃げのチャイナリスクで公金を浪費した。

香港便は航空会社と二年以上の運航を約束し、昨年四月から香港限定の赤字補填で優遇支援したが、昨年八月末で運航を無期限休止。美味しいとこだけ持っていかれた。

県は過去に中国の湖南チャーター便でも運航中止を一方的に通告されるなどチャイナリスクの洗礼を浴びていた。香港便も中国サイドに儲けのネタを提供しただけだった。

腰砕けに終わった飯泉前県政の検証

後 藤田知事は知事選で県民に説明責任が果たされていない飯泉県政の負の遺産の検証と見直しを約束したが、口先だけの腰砕け。ミイラ取りがミイラになっている。

象徴事例が外部の任意団体を隠れ蓑に使った錬金術だ。飯泉前知事は文化立県とごり推進委員会という任意団体を隠れ蓑に使い、記念オケ事業に約十億円の公金を垂れ流した。

約十億円のうち、約八億円は記念オケを仕切った女性社長経営会社の事業収入になった。女性社長は後に脱税が摘発され、記念オケ疑惑が弾け、県の文化行政に汚点を残した。

後藤田知事は徳島県利用促進協議会という任意団体を隠れ蓑に使い、韓国や香港の航空会社、旅行会社に公金を垂れ流している。令和七年度の補助金は予算ベースで約四億八千万円。任意団体は県の情報・餌の対象外。県議会のチェックも及ばない。チェックできるのは県が任意団体に流した公金の額だけ。任意団体が何に使ったのかという使途は闇の中だ。

飯泉県政最大の汚点である任意団体を隠れ蓑に使った錬金術に切り込むどころか、自ら流にカスタマイズして県費を隠れ蓑に浪費する後藤田知事。飯泉前知事と同じ穴の狢。

スポーツ協会が門前払い、知事のごり押し人事

思 い付きの行き当たりばったり政策に県職員が辟易し、「朝令暮改」という言葉が秘かに流通している徳島県庁。後藤田知事の求心力や威信は急速に失速し始めている。

一例が行政連携団体と言われる外郭団体改革だ。公益財団法人の県スポーツ協会に県スポーツコミッションのアドバイザーである牛尾貞代氏を送り込もうとしたが、頓挫した。県スポーツコミッションはスポーツで地域活性化を目指す組織。牛尾氏は知事に任命されコミッションのアドバイザーに就任した。スポーツで未来創りを目指す㈱USTの社長だ。

知事の指示を受けた県当局はスポーツ協会に①コミッション事務局の協会への移管②牛尾氏の協会理事就任を打診した。協会は二月の総会で協議、全員対応指示だ。

後藤田知事はスポーツ協会の会長。定款では会長の権限は助言だけだが、会長である知事の意向にノーを突きつけた協会執行部。知事の威信と求心力は地に墜ちた。

スポーツ協会は各種競技団体の集まり。協会に賑わいづくりの機能を持たせようとした後藤田構想がそもそも無理筋だった。知事のごり押しを協会の良識が阻んだ。

ゴングが鳴った飯泉衆院議員との因縁バトル

知 事選で化けた大風呂敷公約の化けの皮が剥がれ始め、「威信も低下」つつある後藤田知事。長年の「確執」飯泉衆院議員との因縁のバトルもゴングが鳴っている。

令和五年知事選で後藤田知事に敗れた飯泉氏。二月衆院選で国民民主党公認で出馬「徳島の窮状を打破したい」と宣戦布告。後藤田知事も「罠をなめている」と応酬した。

飯泉氏は「カモ～ン」と絶叫する選挙パフォーマンスで支持を訴えた。「徳島」区では自民の山口衆院議員に大差で敗れたが、比例復活で衆院議員に就任した。

議員バッジをつけた飯泉衆院議員は知事時代に築いた人脈構築に動いた。「つが県土整備部の現職や OB が集う「至会」。県庁近くにあった飲食店「至」の女性店主が仕切る親睦団体だ。

女性店主は飯泉知事の有力支援者。知事との関係で人事等に介入。饗応を受けた。五至会絶頂期には親睦会に衆院議員や県議、県職員や OB、建設業者らが群がった。

五至会は後藤田知事の誕生で地下に潜った感があったが、飯泉衆院議員の誕生でまたぞろ蠢き始めた。二月中旬、徳島市内の飲食店で飯泉衆院議員の選挙を祝う親睦会が開かれた模様。

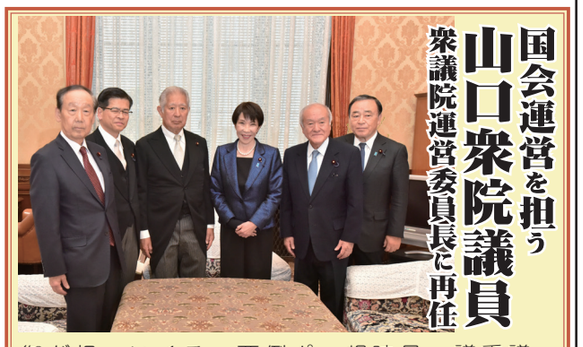
後藤田知事が衆院議員時代から「手柄の奪い合い」等で犬猿関係だった後藤田、飯泉両氏。今度は知事と衆院議員の立場が入れ替わった因縁のバトルが展開されそうだ。

ともに徳島を「宝島」と認識し、活性化を訴える二人の政治家。その因縁のバトルは「目糞鼻糞を笑う」公益目的のかけらも感じさせない痴話喧嘩の類いだ。

再燃するか 飯泉衆院議員との因縁バトル

国会運営を担う山口衆院議員

衆議院運営委員長に再任



二月八日の衆院選で十三選した山口衆院議員。招集された国会で衆議院の議院運営委員長に選ばれた。議運委員長は議長、副議長に次ぐナンバー3。衆議院運営の要だ。

議運委員長の役割は、法案審議を各委員会に割り振るコントロール機能。衆議院の運営をはじめ、国会法や衆議院の法規・諸規則に関する事項を所管する。

予算委員長と並ぶ閣僚クラスの重要ポスト。閣僚経験者が就任するのが通例だ。各省庁の官僚もその発言を最重要視するなど別格扱いの対応だ。

山口氏が議運委員長の重職に就任するのは二回目。野党各党との人脈も広く、いまや国会運営になくてはならない重要議員になっている。

写真は委員長就任時に議長室で高市首相らと撮影したもの。三月十二日に予算が通れば、高市首相が議運委員長を訪問。御礼のセレモニーが行われるという。

徳島駅前・アミコ

ザ・チェック

徳島都市開発

新ビルへの建て替えなら約三三三億円

遠藤市長

アミコビルのレームダックをいつまで放置するのか。ビルを運営する徳島市の第三セクター、徳島都市開発㈱は実質的に経営破綻。招聘された百貨店再生請負人も為す術なしだ。

アミコビルは徳島駅前の再開発ビル。開業は一九八三年。土地の四分の三は徳島市の所有。建物の約四十％は徳島都市開発が権利を持つ。ビル名のアミコはイタリア語で友人の意味だ。

ビルを管理運営する徳島都市開発は瀕死状態の末期ガン企業だ。昨年一月末時点で、年間売上は約十四億円。負債総額は約七十億円、債務超過は約四十億円。所有する現金は約十億円だ。

ステージ5の末期ガン企業に対し、大株主の徳島市は二十億円の追加融資を実施。岩手の百貨店、川徳の再生で知られる南波昇氏を社長に招聘。アミコビル再生を託した。二十億円や再生請負人の投入は焼石に水だった。売上はピークから半減。末期ガン状態は続いたまま。再生めざした長期経営計画も実現できず。単なる紙切れになっている。

危機感抱いた徳島市は昨年、徳島都市開発に債務の劣後化に向けた経営ビジョンの提出と長期収支計画の見直しを求めた。徳島都市開発は昨年十一月に回答したが、内容はギブアップ宣言だった。

黒字化計画は資金調達の目途が立たないとして「作成は困難」と開き直り、徳島市に対し、①融資返済の猶予②追加融資③人材登用の支援を求めて泣きついた。

「金がない。人がない。借金払えない」と泣きすがる徳島都市開発に対し、徳島市は支援検討のため「長期が無理なら、せめて五年間の収支計画や事業計画を出せ」と求めた。

徳島都市開発は今年二月、資料を提出したが、会社の閉鎖危機解決の方向性をまとめただけ。市議らから「金を借りたいなら、何に使うかぐらいは言え」等批判が噴出した。

瀕死状態の徳島都市開発には今後さらに追い込みがかかる。徳島市への二十億円融資の返済スタート、そう西武への約十二億円返済が令和九年以降も分割払いが認められるか等だ。

昨年十一月には取締役の築設政務部長が執行役員になったが、都築政務部長は同社社長時代に「アミコはあと二年で潰れる」と断言していた人物。再生への本気度が疑問を呼んでいる。

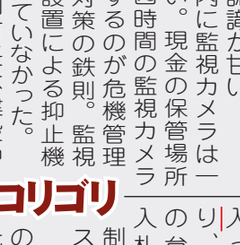
二〇三三年問題もある。五十年という建物の法定耐用年数だ。二〇三三年に築後五十年を迎え、新規ビルへの建て替えか大規模改修か、リニューアルへ向けた経営判断が問われる。

ビルの延べ面積は約二万八、六〇〇坪。試算では新規ビルへの建て替えなら、解体&新築で約三三三億円。外壁や空調、エレベーター等の大規模改修で約八十億円必要だ。

山本潤造元市長が政治力と人脈でどこまでを誘致し誕生させたアミコビル、駅前のランドマークのリセットには、山本元市長並みの構想力と人間力を備えた政治家の登場が待ち望まれている。

運営会社は破綻寸前 負債約七十億円

徳島空港利用促進協議会 会員で補助金分配


後藤田知事

隙間の声

韓国便、香港便補助金 実態隠す「隠れ蓑」団体

後藤田県政は「黒塗り県政」なのか。国際航空便の運航支援だ。徳島阿波おどり空港に定期便やチャーター便を飛ばす外国航空会社に補助金を出すが、金額や金の出し方は闇の中だ。

補助金の名称は国際便就航促進費。国際便を運航する航空会社や旅行商品を造成する旅行会社等に交付する。予算額は令和六年度補正と令和七年度当初併せて約五億円だ。

闇の一つが補助金の出し方だ。県が直接航空会社に補助金を渡すわけではない。県は「徳島空港利用促進協議会」という任意団体に補助金を出すだけ。交付対象は協議会だ。

県から補助金をもらった協議会は、協議会の国際便就航促進事業として航空会社や旅行会社に助成金を出す。

後藤田知事は「航空会社に出した補助金額を開示せよ」と国際定期便の補助金問題を追及しているが、県観光誘客課は補助金交付に協議会が介在していることを説明していなかった。

説明しなかった理由はシンプル。「聞かれなかったため」（観光誘客課）だ。補助金支出の実態は県が航空会社等にほぼ撤退。補助金の財布機能だ。

会員企業への補助金分配機能も持つ。国際便以外の補助金交付先は、JALやANAグループ、旅行会社など。県からもらった補助金を会員間で分け合っている。

協議会の決算資料によると、令和七年度に県が協議会に交付した補助金は四億八、九二八万円だが、県に公文書公開請求すると、協議会に交付した金額は黒塗りだ。

徳島県は県議会に対し守秘義務を理由に韓国や香港の航空会社に流れた補助金額を公開しないが、財源である協議会に交付した補助金額さえも公開しない「情報公開後退県」だ。

知事選で「黒塗り資料は論外」と透明度UPを強調した後藤田知事だが、実態は黒塗り資料だらけの「黒塗り県政」。透明度UPが掛け声倒れに陥っている「不透明県政」だ。

県費支出、特に企業・団体への補助金支出は公開が原則だ。県費の原資は県民の貴重な税金。その重みを自覚して県民に軸足を置いた情報公開を実現すべきだ。

露呈した杜撰な公金管理

問われる枡富町長の統治能力

「消 えた約九万円」が露呈させた牟岐町の公金管理の杜撰さ。最大の問題点は町政トップの枡富町長による業務や人事、危機管理のマネジメントができていないということだ。

家業が立ち飲み酒屋店で町議を経て町長に就任した枡富町長。現在二期目で新庁舎やごみ処理施設など大型事業に取り組んでいるが、職員に対する求心力を確立しているのだろうか。

重清県議の議長就任祝賀会で、酒の勢いで祝辞を述べようとしたのか、泥酔して失態を演じた同町長。町民から「気品や品格、頭脳明晰さが感じられないコミック町政はもうたくさん」と町政トップの引き際を問う声も。

購読料：年間 8,400円
トリビューン・電子版 tribune.web
購読申し込み頂くと、スマートフォンやタブレット、PCで最新号の閲覧ができます。ネットニュース（速報）もトリビューン電子版で。
お申し込みはHP www.planning21.ne.jp/tribune/ の申し込みフォームから

県市協調唱えるだけで独自のまちづくりが見えてこない徳島市の遠藤市政。「遠藤市長では荷が重いのでは」とチェンジを求める声。須見県議会議長の市長選擁立の声…。

JALやANAグループが会員の徳島空港利用促進協議会。県からもらった補助金を使い、毎年国内定期路線利用促進の名目でJALやANAグループに助成金を交付。「県費補助金を仲間内で分配する談合組織か」との指摘も。

遠藤市長らの証人訊問が終わった徳島市議会の生活保護百条委員会。三月十一日に調査報告書（案）が示される予定。焦点は森本課長が市長に郵送した過大請求告発文書を「記憶にない」と証言した遠藤市長を偽証の疑いで告発するか。

とりびゅーん・しこく